

2022年6月16日

国際異文化学会員各位

国際異文化学会 編集局

## 『異文化研究 16』の原稿応募要領

- 1 【応募資格】 国際異文化学会員、または、編集局が承認した方。
- 2 【自己負担】 諸般の事情により、執筆者に出版費用の一部負担をお願いしています。  
論文：¥10,000、 エッセイ／研究ノート：¥5,000。
- 3 【内容】 未発表の「論文」「エッセイ」「研究ノート」の3種。
  - \* 口頭発表されたものに関しては、その旨の記載によって審査の対象となる。
  - \* 「エッセイ」とは、本学会の共通の理念のもと、「論文」の書式にとらわれずに書かれたもの。
  - \* 「研究ノート」とは、論文の作成を前提とする〈資料的な内容〉や〈断片的な内容〉、または、論文として完成された形には至っていないが、研究過程における一つの結果として〈完成を待たずに発表しておきたいもの〉など。
- 4 【書式などについて】
  - ・ワープロ文字で〈横書き〉(A4用紙、日本語文：40字×35行、Fサイズ：10.5)
  - ・「注」は日本語の場合も英語の場合も末尾に付ける。
  - [文字数] ・日本語の論文 「注」を含めて8,000～14,000字(400字原稿用紙換算で20～35枚)程度。
    - ・英語の論文／エッセイ 「注」を含めて4,000～7,000語程度。
      - \* ただし「ネイティブ・チェック」を受けたもの。
    - ・日本語のエッセイ 6,000～14,000字(原稿用紙換算で15～35枚)程度。
    - ・日本語の研究ノート 6,000～14,000字(原稿用紙換算で15～35枚)程度。
  - [英語タイトル] 〈日本語タイトル〉の場合は〈英語タイトル〉を併記して下さい。
    - \* ただし、〈英語タイトル〉の提出は〈審査時〉でも可。
  - [匿名原稿] 匿名原稿を前提に査読と審査を行いますので、「審査」まで、提出原稿には執筆者の氏名を記入しないでください。
  - [英文の概要(シノプシス)] 日本語の論文の場合のみ提出(500語以内)。
    - \* 提出は〈審査時〉でも可。
- 5 【提出方法】 電子メールの〈添付ファイル〉によって提出。
  - ・「ファイル名」には、原稿のタイトルと氏名を書いて下さい。
  - ・「メールの件名」には、「異文化研究 16～原稿」と書いてください。
    - (\* 「～」には、論文、エッセイ、研究ノートのどれかを書いてください。)
  - ・応募原稿データの受領確認は電子メールで行います。
- 6 【提出期限】 (完成原稿を対象とする)「審査」の提出期限 2月28日(2023年)  
  
「査読」(1回のみ)を希望する場合の提出期限 12月18日(2022年)

## 7【学会誌の発行延期】

あくまでも現時点での暫定的な原則論になりますが、投稿原稿、もしくは、審査後の掲載可能な原稿が「3点」に達しない場合は、発行が次年度に延期されます。その場合は、あらためて投稿者にご相談させていただきます。

## 8【査読と審査】

- ・学会誌への採否は、〈匿名原稿〉に対する複数の審査員による「**審査**」によって決定されます。**審査方法**は、〈**賛否の投票**〉です。審査員の氏名は公表しません。（\*現在、「審査」は「査読」から完全には独立していないために、審査員には査読者の一部も含まれます。）
- ・審査結果は、審査後速やかに編集局長より電子メールで投稿者に知らされます。
- ・「**査読**」は、「**審査**」に先立ち、**希望者**に対して1度行われます。査読は、最終的な審査までに、原稿内容の問題点を知り、可能ならば修正して原稿内容の充実を図りたい場合に投稿者が利用できるものです。査読は〈匿名原稿〉に対して複数の査読者によって行われます。査読は会員以外の方に依頼することも可能とし、査読者の氏名は公表しません。
- ・〈**完成原稿**〉を提出し、**査読を必要としない場合は、「審査」のみを受けて下さい。**
- ・**査読の目的**は、掲載に向けて助言することです。その助言で重要なのが、内容や表現に関する問題点の指摘です。特に論文の場合は、掲載可能か否かの判断に基づく問題点の率直な指摘が必要になります。問題点の指摘と表裏一体をなすのが修正案の提示ですが、現実的には、具体的な修正案が提示される場合と提示されない場合とがあります。単純に修正案が思い浮かばないということも起こりえます。本学会の査読は、あくまでも、論述の構成や論述内容の整合性、または、表現の明確さなどに焦点を当てた、〈問題点の確認〉を目指して行われます。高度に専門的な論述内容の場合、専門的な立場からの査読には応じられない場合があることをご了承ください。
- ・**修正案**は、言うまでもなく、〈**指示**〉ではなく、〈**参考案**〉に過ぎません。査読者が複数なので、異なる意見や異なる修正案が示されることも想定されます。修正が可能か否かの判断、修正をするかしないかの判断、どのように修正をするかの判断は、**すべて投稿者に委ねられています。**
- ・**編集局長**は、基本的には、査読のコーディネーターであり、査読を直接行うことはありません。投稿者と査読者とのパイプ役です。（\*ただし、書式などに関して原稿に問題がある場合は、査読者の意見を待たずに、問題点の指摘をさせていただくこともあります。）審査においても基本的な役割は同じであり、**審査時における投票は行いません。**（\*可能な範囲で掲載へ向けての助言をさせていただきたいと考えておりますので、査読結果や原稿の修正などに関する疑問がある場合は、ご遠慮なく電子メールでご相談ください。）

## 9【審査後の作業】

掲載決定の原稿に関しては、最終的な印刷原稿を作成するために、図表に関する実際のレイアウトなどのチェックも兼ねて、学会誌の実際の書式（ページ設定）に合わせた原稿の修正依頼をさせていただきます。その際に投稿者は原稿における誤字脱字の最終的なチェック行うことが可能です。

- 10【提出・連絡先】 石月正伸 メールアドレス： ishi-tsuki@nifty.com